

第13回

高浜市の未来を描く市民会議(報告)

総合計画(最終案)を仕上げよう!

—市民会議としての基本計画(案)を発表しよう—



日時 平成22年12月9日(木)

午後7時～9時

場所 中央公民館 中会議室(3階)

1. 各分科会から基本計画(案)を発表しよう (7時00分～8時50分)

◆行財政運営分科会(神谷正巳サブリーダー)

- ・基本目標に「みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう」を掲げ、まず、みんなで考えてきた。
- ・目標1「市民とともに歩む経営を行います」の指標として、1つ目に、「目指すまちの姿である『思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかハマ』を知っている人の割合」を掲げた。総合計画を経営の中心に置くということから、総合計画の知名度・認知度を測るものとして設定。目標値は30%で、市民会議メンバーの皆さん1人当たり60名の方に知らせていただく計算。
- ・2つ目に、「総合計画の評価や進行管理に参加したことがある人の数」を掲げた。“市民とともに歩む経営”という観点から、計画の策定に携わった市民会議を継続し、進行管理まで一緒にやろうということで設定し、目標値は100人。これからも市民会議が継続していくと聞いているので、出来る限り、皆さんのご協力をお願いしたい。
- ・目標2「次世代のために、健全な財政運営を行います」の指標として、1つ目は、次世代へ負担をまわさない健全な財政運営を行うという趣旨から、市の借金が市の1年間の収入と比べてどのくらい多いかを示す「将来負担比率」とした。目標値は、借金総額を1年間の収入以内とし、将来負担なしとした。
- ・2つ目の指標は、市の財政に対する関心を持っていただき、財政への理解を深めてもらいたいということから、「市の財政状況に関心を持っている人の割合」とした。目標値は5%アップの80%。
- ・目標3「市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います」の指標として、1つ目が、『高浜市自治基本条例』を知っている人の割合」とした。目標値は、総合計画の目標と同じ30%としている。
- ・2つ目は、「地域活動に参加したことがある人の割合」とした。目標値は、現状よりも10%アップの55%。
- ・3つ目は、「地域活動に参加している職員の割合」とした。目標値は、総合計画の計画期間11年間で100%にする考えで、毎年5%アップの60%。
- ・これからも高浜を良くするために、みんなで力を合わせなければならないと思っているので、よろしくをお願いしたい。

○=市民のコメント

●=職員コメント

【行財政分科会メンバーより一言】

- こういった場の会議に参加したのは初めてだった。やっと目標が決まったので、これを皆さんと一緒に実際に出来るように頑張りたい。(浅岡保夫さん)
- 市民会議に参加し、3つのことを感じた。1つ目は、良き地域の方々と関わりあえたこと。2つ目は、良き職員の方に会え、ともに話し合えたこと。3つ目は、行政の良い面と悪い面が見え、参考になったこと。一番楽しかったことは、2回の楽しい“飲みニケーション”が出来たこと。(村瀬一日出さん)
- 目標を決めるにあたっては、いかに代表してまとめていくかということが大変だったが、こういう機会を与えていただき感謝したい。(鈴木清文さん)
- 昨年度の地域計画をお手伝いさせていただき、それと同時に地域福祉計画もお手伝いさせていただいた。これ(総合計画)が3つ目ということで、すごく勉強する機会を与えていただいたにもかかわらず、何もやれていないという想いがこみ上げてきて申し訳ないと思うが、長い間住んでいく間には、これを活かせる機会があることを祈りながら、勉強し続けていきたい。(廣田貴峰さん)
- 1番の思い出は、高浜市の将来像を投票で決めるときに、1回目は第2位になったものが、私が一言言わせていただき、それが反映してかどうかは分からないが、最終決戦の中で今のものが決まったこと。案を作る段階で一生懸命みんなで考えて汗を流してきた。これを実行に移すとき、また汗をかく覚悟でいるので、一緒にやっていきたい。(神谷正巳さん)

【自治基本条例分科会メンバーより一言】

- 自治基本条例の最大のテーマは、市民の皆さんのまちづくりへの参画。条例の前文にもあるように、自分たちのまちは自分たちでつくるんだという意識を、市民の皆さんにも今後もっともっと高めていただけるように、PRをしていきたい。(板倉良平さん)
- 毎回たくさんの市民の皆さんが参加していただき、市民の皆さんのパワーにびっくりしている。こういう市民の皆さんが多いということは、高浜も明るい将来があると思っている。(鈴木信之 GL)
- 休みがちでメンバーの皆さんには、ご迷惑をおかけした。市民の方が大変熱心で、これからも高浜市を良くするために、市民の方と行政が一体となって活動できればと思う。(杉浦崇臣さん)
- 分科会の活動や車座談議などで、市民の方から貴重なご意見を伺うことが出来た。(内田徹 GL)
- 「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を目指して、どこの町内会よりもいち早く、沢渡町に広げたい。(井野代司彦さん)
- 1年間何をやってきたか分からないが、今日まで無事にやってたどり着いた。大変お世話になった。(鈴木幹男さん)
- 市民会議を通して、高浜市に住んでいたが、産業・教育・都市基盤・福祉、当たり前のことだが、いろんなことの中で私たちは暮らしていたんだということを改めて感じた。(神谷小百合さん)

○目標3にある「『高浜市自治基本条例』を知っている人の割合」は、子ども中心に、“広め隊”という名前の中で、前倒しで広めていきたい。地域では、10年の地域計画を既につくっている。総合計画が出来ると、改めて見直さなければいけないとも感じた。体に気をつけて、頑張ってみんなと一緒にやっていきたい。(神谷義国さん)

○これからが大事。熱い想いでつくった条例をしっかり根付かせていくことが大事。(中川勝利さん)

◆生涯学習分科会(山本時雄 GL)

- ・目標4「学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます」を掲げた。子どもを生涯学習の根っこと捉えて、夢と希望を持って次の時代につなげていくということを計画した。
- ・1つ目の指標に、「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」、2つ目に、「将来の夢を持っている子どもの割合」を掲げた。アンケートを取った結果、高浜市に愛着を持っている方が、64%いらっしまった。その一方で、“どちらかと言えばそう思わない”という方が24.7%。地域の教育の力である“地育力”を蓄えた生涯学習を通して、高浜市への愛着が高まることを期待して、“どちらかと言えばそう思わない”という方の半分以上が愛着を持っていたらいいようにと考え、年1%ずつ向上し、10年かけて達成したい。
- ・将来に夢を持っていない子どもたちが、21.6%いるということで、大人が子どもに夢を語り継ぎ、10年かけてそれを半分に減らすということで、年1%ずつ減らしていく。
- ・生涯学習は、常に働きかけ続け、投げかけ続けていかなければならないと思っている。“急がば回れ”“継続は力なり”の姿勢で生涯学習に取り組んでいきたい。

【生涯学習分科会メンバーより一言】

●市民の方と長い時間をかけて話し合い、メンバーの想いが詰まったこの基本計画を、より多くの市民の方、子どもの心に届くような施策づくりをこれからも考えていきたい。(杉浦愛子さん)

○タカハマ・カフェで、100人の友達をつくるという紙を書いたが、この1年間を通じて、いろんな人と出会い、話をした人が30人くらいいるのではないかと思う。友達にはなっていないなくても、顔見知りになったということで、大変良い機会をいただいた。まちづくりに関しても、情報の少なさ、情報を発信する大切さ、情報を待っている人がいるということが分かった。市内はもとより、県外等いろんなところに高浜市から出て行った人たちで、情報を見るところという人がいるということが、この1年間を通じてよく分かった。他のところでもぜひやってほしいと思う。(村松輝一さん)

○みなさんの若い力ですごい良いものを考えていただいた。発想が若い人はいくらでも出てくると感心していた。(石川満清さん)

○みなさんのすごい力ですごく良いものが出来た。目標を実行するには、坂本竜馬のような良きリーダーが引っ張っていってくると良い。(神谷法穂さん)

○生涯学習は大変枠が広いと感じた。特にスタートから子どもに夢を与えるということで進んで来て、子どもを上手く育てるのが我々の役目だと感じた。(神谷利郎さん)

- 1年間いろんな方の話を聞き、いろんな想いをもっている方、いろんな活動をされている方が本当に多いと感じた。大切なのは、そうした想いを持っている方、行動している方をつなげるということ。そうすれば、それが大きなうねりになり、大きな力になる。目標にもあるが、つなげる力を持てば夢と希望は必ず継続されると信じている。(藤克幸さん)
- 最初は毎日逃げ出したいと思っていたが、1年経ってしまった。これから基本構想をつくり、生涯学習を進めていく仕組みづくり、場の整理など、課題はまだ山ほどあるため、1つずつ解決したい。皆さまからのご協力とお知恵をお借りすることも多々あると思うが、そのときはお願いしたい。(天野卓哉さん)
- あっという間に1年が過ぎた。ということは、総合計画の10年間というのも、きつとあっという間に過ぎてしまうのではないかと思う。時間に追われることなく、時間を追うような余裕が持てれば良い。生涯学習基本構想もあるため、皆さまの想いをまた寄せていただければと思う。(山本時雄 GL)

◆教育分科会（竹内一仁リーダー）

- ・目標5「心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります」を掲げ、子どもたちが心身ともに健やかに育つためには、学校を中心とした家庭や地域の連携が大事だということを、考え方の中心に置いた。よって、先生や家庭の教育力や、学校を中心とするためのネットワークづくり、場を整えることも大事。
- ・高浜市教育基本構想の策定があり、ここに取り組み内容を検討してきた。まだ策定最中のため、具体的なことはこれからになるが、ここに掲げていることを考えている。
- ・目標が達成された姿はいろいろあるが、地域の活動に自分が積極的に参画するような子どもたちになってほしいというのが一番のポイント。
- ・指標については、小中学校にアンケートを取った結果が現状値になっている。1つ目「毎日をととても楽しいと感じている子どもの割合」が49%。2つ目「学習に積極的に取り組む子どもの割合」が65.8%。3つ目「過去一年間に地域行事・ボランティア活動に参画した子どもの割合」が低くて13.5%。ここから、1割くらい向上させるということで、目標値を掲げた。
- ・この目標値を達成するために、今後、教育基本構想で実際にどういうことをやっていくかということを実践的にしながら、頑張っていきたい。

【教育分科会メンバーより一言】

- 1年間、多くの方に知り合え、分かり合え、理解し合え、同じ方向に向かって進むことが出来たことが大変素晴らしいこと。高浜市としての財産が出来たと思う。何かを成し得たという状況ではないと思うため、今から先、皆さんで話し合い、決めていった目標・指針・方向性を形として持っていただければ良いと思う。(深尾睦世さん)
- 高浜市への愛情と情熱を持った皆さま方と一緒に総合計画を策定出来たことを、誇りに思う。(磯村和志さん)
- 1年間いろいろ勉強させていただいたことも多かった。まだ基本構想が残っているので、ひとまずここで区切りができて、さらにまた頑張っていきたい。(杉浦久美子さん)

- 今後の地域との関わりが大事になってくる。高浜の教育というのは、大きく変わってくるのではないかと感じた。(梅田稔さん)
- 高浜市民の方のパワーは、本当にすごいと感じた。教育基本構想という大仕事が待っているため、またお力添えをお願いしたい。(中村孝徳GL)
- 教育は難しい。気長にやらなければならないと感じた。(神谷利信さん)
- 1年楽しくやらせていただいた。以前は会社人間で、全く家庭や学校、地域を意識したことが無かった。たまたまPTAをやって、家庭と学校を意識するようになった。おやじの会をやり始めて、地域を意識するようになった。今回、市民会議に参加し、初めて高浜市を意識するようになったということで、すばらしい会だったと思う。翼地区の方が少ないように思うので、こうした会にもっと参加していただきたい。(竹内一仁さん)
- 1年とても楽しくいろいろな方とお話させていただき、大変ためになった1年だった。(神谷直子さん)

◆子育て・子育て分科会(鈴木康博リーダー)

- ・目標6「人のつながりやぬくもりの中で、子育て・子育てを支えます」を掲げた。指標の1つ目「子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合」の現状値が59%もあった。ここから目標値を少し上げたいということで3%アップ、全体としては5%アップを意識し、62%とした。皆さんにも貢献していただきたい。
- ・指標の2つ目「子どもと触れ合う行事に参加したことがある人の割合」の現状値が45.1%。先ほどの教育分科会での「行事に参画した子どもの割合」の現状値が13%とズレがあるが、大人が積極的に子どもを引っ張り出して、行事に参加していかなければいけないからしているという現状かと思う。目標値は48%。子ども主体も必要だが、大人もどんどん引っ張っていかなければいけない。
- ・目標を達成するためには、高浜市民の方が全員同じような方向を向いていただかないと、達成出来ない。皆さん方で検討して頑張っていきたい。

【子育て・子育て分科会メンバーより一言】

- 「つながり」「ぬくもり」という言葉を、しっかり考えることが出来た。今、安城の市民ギャラリーで、モルディブなど6カ国の子どもたちの作品展をやっている。紙がない国の子どもたちが、絵を並べてくれる豊かな日本だと思う。心豊かな子どもたちをどうつくるか、大人として考えていきたい。(井上四雄さん)
- 職員としてよりも、高浜市に住む2人の息子を育てる母親としての意見が多くなってしまった。子育てが楽しいと感じられるお母さんが少しでも増えるように、私なりに何か出来るのか、これから考えていきたい。(岩月民子さん)
- 自分の子どもから「今日、市民会議行ってくる」と言うと、「お母さん、かっこいい」と言われる機会だったため、楽しく参加させていただいた。(清水恵子さん)
- 1年前に入ったとき、子育てをしたことがない私が、何を言えば良いのかという状況だった。皆さんの足を引っ張ることしかできなかったが、私自身にとっては、世の中子どもと大人しかいないのだから、自分も子どもだったときがあり、自分にも子どもがいるという

ことを考えると、子どもがいかに大事かということ、このメンバーの皆さんから教わった。ぜひ、皆さんも子どもを大事に育てていただきたい。しかし、この“大事”が一番問題。大事にしすぎると大事ではなくなっている。必要に応じて大事にしてほしい。(横山道彦さん)

- 皆さんと議論しながら総合計画をつくり上げられて良かった。今後、所管グループとしても、市民の皆さんとの情報共有や議論を交わしながら、目標達成に向けて取り組んでいきたい。昨日命日だったジョン・レノンも言っていたが、「1人で見ることは夢だけど、みんなで見ることは現実だ」という言葉を思い描きながら、目標達成に向かって取り組んでいきたい。(大岡英城GL)
- いろいろな意見があり、正面から子どもが好きという方や、裏側から子どもを見ている方、いろいろな立場からとても伝わってきて、今後、仕事に取り組む上での大きなエネルギーをいただいた。(毛谷純子さん)
- 会議に参加させてもらうたびに子どもを育てるのは大変だと感じながら、ここで学んだことが、孫育ての手助けになればいい。(鈴木嘉久子さん)
- 職員として、市民として参加させていただいて、自分が思っていることと同じことを皆さんが思わないんだということ、改めて実感した。それぞれ皆さんの思いが違うということは、またそれぞれ実現させていくことも違うのかなと感じた。それをまたどうやって実現させていくのかは大変難しいが、それに向かって取り組んでいくのだろう。(都築真哉さん)
- 皆さんにいろいろ助けられた1年だった。(鈴木康博さん)

◆産業分科会(神谷環光リーダー)

- ・昨今の景気を考えると、大変難しい課題だった。中川先生からも景気の動向によって動くような指標は避けた方がよいというアドバイスをいただいたが、「こんなことに取り組みます!」「目標が達成された姿」を達成するのは、まちのエンジンとして産業を元気にする、地域に根ざした新ビジネスの芽を育むという2つのものが重要。
- ・税収が落ち込めば、皆さんが一生懸命考えてきたことが、取り組めない、達成出来ないことになってしまう。
- ・総論よりも核論が白熱してしまったため、基本計画には反映されていない部分もあるが、想いは非常に強い。
- ・指標の「製造品出荷額等」「小売商店の店舗数」「組織化・法人化した農業者団体の数」は、現状値と目標値がほとんど変わらない。上を目指すことは簡単だが、絵に書いた餅ではいけないので、いかに今の数字を落とさないかということが重要。今の数字を落とさなければ、自ずと上を向いてくると考えた。
- ・企業誘致について、かなり議論したが、これも絵に書いた餅ではいけないので、今いる企業が外に出て行かない、今景気の良いところは、事業を拡大しようという会社が多いと思うので、そういう方々に企業誘致制度を理解・利用させていただいて、少しでも高浜での雇用や税収を上げていただく努力をしていただくということで、「企業誘致制度を利用した件数」を現状値5件から目標値10件の設定をした。

- ・目標8「新ビジネス」について、今、各地区でまち協やいろんな形で活動が始まっている。そういうまち協や町内会、諸団体によって、地域での困りごとから新たなビジネスを模索していただき、それが皆さんの問題を解決し、新しい、高浜らしいビジネスに繋がっていただければ良いということで、コミュニティ・ビジネスの事業を試験的に運用するようなことを踏まえながら、多くの方に高浜市に来ていただくということで、この指標を設定した。

【産業分科会メンバーより一言】

- 昨年12月に出航した産業分科会号も、何度か難破しそうになったが、何とか戻ってくることが出来た。今後ともよろしく願いしたい。(深谷直弘GL)
- 分からないことばかりで、あまり協力できなかったことが残念。これからも頑張っていきたい。(森裕さん)
- 「産業」とは、「産むことを生業にする」ということで、ここが全ての原点になっていくのかなと思いつつ、なかなか会議に出れず申し訳なかった。(近藤智樹さん)
- 自分の住んでいるまちはどうかと考えながら、高浜市という熱い想いを感じさせてもらった。これから、計画実行に向けて頑張りたい。(田中秀彦さん)
- 次回やるときは、教育か地域福祉に参加したい。(神谷環光さん)

◆環境分科会(竹内亨弘リーダー)

- ・環境問題については、一目で分かる、評価がされる難しい部分。幅広い全員参加型、法遵守で、それが一過性ではなく、ずっと継続すると良い。
- ・指標については、中間発表の段階と変わらない。
- ・指標1「日ごろから省エネや省資源など環境に配慮した生活をしている人の割合」の現状値がすでに非常に高い数値だった。これ以上高くするのも難しいが、メンバーの声から「市民100%が当たり前! そうしなければ、高浜市がモデルとなる省エネ・省資源化をしているとは言えないのではないか。」ということがあり、目標値を85%とした。
- ・指標2「1人1日あたりの家庭系ごみ排出量」については、平成16年から始まった“高浜市ごみ処理基本計画”という活動を継続している。当初は、653gで、このときのまち懇では、「1人1日90gの低減」ということで活動していた。現在は、556g。これを400gまで下げたい。
- ・指標3「環境美化推進員の人数」は、“高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例”の推進の柱になっている機動部隊だと思う。現在は16団体1791名いらっしゃるが、もう少し市民全体に根付いていかないと、推進部隊が固まってきている。目標値は2100人。底辺の広さを拡大したい。
- ・環境の問題は、手を抜くと、いつの間にか消えていき、陳腐化していく。行政ともよく相談をし、いろんな広報を活用し、継続的に忘れずに活動を進めていきたい。
- ・大きな都市では、施設の公園があるが、そういった場所では、0.1%の人間をマークしないと、いくらお金を使ってきれいにしても、すぐに元に戻ってしまうと言われている。幅広く、無視する人の無いように、そういった活動の基盤をつくっていくのが重要。

【環境分科会メンバーより一言】

- 芳川町を毎日散歩しながらごみを拾う活動を続けている。この活動を、これからまち協や行政にも働きかけて、市内全体に広がるような活動をしていきたい。皆さまのご支援もお願いしたい。(中川庄嗣さん)
- 最少人数の部会だったが、多くの意見が出ていた。1年間を通して、今まで知らなかった方、高浜に強い想いを持つ方々と知り合って、話を出来たことが、非常に良かった。(加藤直さん)
- 市民会議に参加し、1年があっという間に過ぎた。皆さんと膝を交えて、未来の高浜について語り合ったり、こういう経験は財産になった。(大村智康さん)
- スタートは何も知らないところから始まったが、市民の皆さんと話し合い、意見を出し合って、こういう形にまとめるまでの過程ですごく良い経験が出来た。この経験を活かしていけるようにしたい。(鈴木将巳さん)
- 目標にもある「環境美化推進員の人数」2100人に目標を設定している。どしどしご参加していただきたい。(芝田啓二GL)
- 休みがちで迷惑をかけた。今後は、目標達成のため、少しでも協力したい。(鈴木貞利さん)
- 環境の問題は、全員が参加しないと継続出来ないし、それぞれの生活のファッションを変えていかないと、省エネ・省資源化の環境活動には入れない。いろいろご指導いただいて進めていきたい。(竹内亨弘さん)

◆都市基盤分科会(神谷和之リーダー)

- ・目標10「ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります」の指標1「長く住み続けたいと思う人の割合」の現状値が76.9%、指標2「歩きやすい、運転しやすいと感じている人の割合」の現状値が52.1%だった。
- ・時代背景が大きく変化し、高度情報化や広域交通網整備などによって、生活や産業の場の選択が広がり、人が都市を選ぶ時代となった。しかし、限られた財政状況の中でまちづくりを進めていくためには、必要なものを選んで、集中的に実施する“選択と集中”について、市民と行政がともに考え、分担しながら進めていく必要がある。今後は、他の目標や計画案とも重なる住環境の効果的な整備、既存の都市基盤の再構築を進めるだけでなく、隣近所の思いやりにみられる心の結びつき、温かさも高浜市の魅了の1つとしてあげられるような、重なり合うハーモニーを奏でるまちを目指したい。
- ・指標1の目標値を82%に、指標2の目標値を57%に設定した。
- ・目標11「自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます」の指標1「公園・緑地・街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人の割合」の現状値が25.6%、指標2「公園をよく利用する人の割合」の現状値が14.5%だった。
- ・小さな子どもさんからお年寄りまで、誰もが安心して憩い、遊べる地域コミュニティの中心施設として、また、自然災害時の避難所としての公園・緑地は欠かせない。その利用や主体的な関わりの状況から、まちづくりの達成度を測るべく指標に設定した。行政は、市民のオアシスとして、交流を育む緑豊かな都市公園の整備に努め、満足度や利用度を基に、市民ニーズに対応した公園・緑地の整備や効果的な維持管理を進めていきながら、市民も

公園・緑地・街路樹や水辺空間を地域の財産と捉え、行政と連携しながら、特性を活かした花と緑にあふれるまちづくりを目指すことで、地域への緑化意識の普及と住民同士のふれあい、災害時のネットワークの構築を目指す。

- ・指標1の目標値を30%に、指標2の目標値を19.5%に設定した。
- ・目標12「安全・安心が実感出来る基盤づくりを進めます」の指標1「地震の備えができていると感じている人の割合」の現状値が22.3%、指標2「該当犯罪発生件数（年間）」の現状値が403件、指標3「交通事故発生件数（年間）」の現状値が220件だった。
- ・高浜市の位置する地域は、地震による被害の影響が懸念される。緊急時の対策とともに、事前の防災対策によって、被害を軽減させることがとても重要。日本の戦後の経済発展と社会行動の変化に伴い、日本は世界一安全で安心な国であるという神話は、崩壊しつつある。高齢者が増加する中、犯罪の不安のまちづくりが必要。治水対策や耐震化、防犯施設の設置といった基盤整備と、市民が主体的に行う防災訓練や交通安全活動の情報共有や協力体制の強化により、それぞれの役割を果たしながら、協働でまちづくりを進めることが重要。犯罪の発生率や交通事故の発生率は、取り組みの結果が実績として数値に表れにくいのでは、という意見もあったが、あえて指標とすることで、みんなが関心を持ち、目標に向けて検証や改善につなげていきたいという想いを込めて設定した。
- ・指標1の目標値を25%に、指標2の目標値を382件、指標3の目標値を198件に設定した。

【都市基盤分科会メンバーより一言】

- 30年くらいやっているが、市民の方が、今まで考えたことのない発想や考え方をいろいろ出していただいた。自分でも財産になった。10年後には、市民側の方で参加させていただきたい。（平山昌秋GL）
- 名前も内容も固い分野だったと思う。それを分科会メンバーの柔らかい、柔軟な発想で、上手く調和をしてやってくることが出来た。（杉浦義人さん）
- いろいろ成長出来た。これから総合計画の実現と自治基本条例に則って、今まで以上に仕事に励んでいきたい。（間瀬敬治さん）
- 初めの中川先生のオリエンテーションでは、とても理解をするのが難しかったが、少しずつ総合計画の大切さが身に染みて分かってきた。これからは私なりに出来る範囲内で協力をしていきたい。（杉浦久喜さん）
- これから目標値達成に向けて、地道に活動することが大事。貢献出来るように戒めて頑張っていきたい。（石橋勝治さん）
- こういう市民会議や何とか協議会、書類をまとめるのが、大の苦手。これからは、目標達成に向かって、黙ってコツコツ活動出来るよう頑張りたい。（神谷和之さん）

◆地域福祉分科会（古橋知美リーダー）

- ・福祉という広い範囲のテーマであり、どこに視点を持つかということで、話し合いをしてきた。女性がとても多く、細やかな意見が多く出された。話し合った結果を紙面にするには、1人ひとりの想いがありすぎて、全部を取り上げることはできなかったが、行政の意

見が前に出すぎるものがなく、子ども・障がい者・高齢者を視点としたまちづくりにつながる取り組みが出来ることを期待する内容になった。

- ・チャレンジドについては、何度も話し合いの中で意見が出されたが、出来ることへの限界もあるので、当初計画には入れられなかった。しかし、目標に掲げる「1人ひとりを認め合い その人らしく暮らせるまちづくりを進めます」を実現する上でも、また、地域の中でともに生活していくためにも、チャレンジドの“働きたい”を行政だけではなく、私たちも一緒になって出来ることを応援していかなければならないという思いから、計画に入れることになった。
- ・市民会議の声にも挙げたが、福祉とはいかなる場合でも、全ての人に当てはまるものであり、直接ではないという考えの中から、私たち自身が1人ひとりともに手を取り合い、支え合い、福祉と向き合うことが出来るまちづくりを目指したい。
- ・一歩ずつ着実に、継続的に取り組んでいくことが重要ということで、指標も少しずつの変化を目標とした。

【地域福祉分科会メンバーより一言】

- 1年間を通じて、自分の住んでいる地域は、自分でちゃんと考えなきゃいけないということに改めて思った。これからは自分の住んでいる地域の広報を、隅々までちゃんと呼んで知るところから始めようと思う。(井原祥子さん)
- それぞれ皆さんの思いがいっぱいあるのだと感じた。その中で、一人ひとりがみんな、それぞれ大事なんだと思った。それを支えている地域がまた大事で、それを高浜市全域で広げられたら、良い市になっていくのではないか。(高木良彦さん)
- 市民会議を通して、新しいつながりを持つことが出来た。このつながりは、地域福祉を支えていく、進めていく上でのパワーになる。目標にも掲げてある「つながり100倍ひろげよう」をぜひ皆さんも一緒に実行していただけると、もっともっと暮らしやすい高浜が出来る。私は、これを広げていくために、「おはよう」「こんにちは」というあいさつで、100倍広げていきたい。(長谷川宜史GL)
- 今回、市民会議に参加させていただいたというのは、チャレンジドをもつ親ということで、地域福祉を真剣に考えられる立場にあると思い、娘にも感謝したい。娘の様子をいろいろな人に教えてもらえる、お節介でつながりがあって、支えていただいている高浜市に住んでいることに幸せを感じる。(中里和子さん)
- 半分も参加できず申し訳なかったが、残りの半分で、いろんな方と知り合えて、勉強することが出来て、大変良かった。これからは、いろんな目標を目にする機会が増えると思う。その目標を見たときにこの1年間の活動を思い出しながら、率先して活動していきたい。(内村紀子さん)
- 「福祉」というと「障がい者福祉」とつなげて考えてしまうが、この会議に参加し、地域福祉はもっと広くて、奥の深いものだということが出来た。チャレンジドがいきいきと生きがいを持って暮らしていけるというところから始まり、みんなが安心して暮らせるまちづくりに繋がっていくと良い。(山上晶子さん)

- 13回の市民会議全てに出席出来た。キャッチフレーズの中の「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の「大家族」という言葉をここから発したのではないかと自慢に思っている。良い言葉が残った。今後は、「こんなことに取り組みます!」「みんなで目指すまちづくり指標」に関して、私なりにロングランで合致していきたい。(阿知波勝義さん)
- 今、国を中心に行政や政治に対して不満を持っていても、どうせどうにもならないという諦めに似た気持ちでいる方が多い。高浜市には、これだけまちづくりに対して一生懸命取り組んでいこうとしている行政の方と市民の方がいるということで、自分たちが生きていく上で、生きやすい、楽しいまちにしようと思ったら、自分の意見をちゃんと、こういうところで言わせていただいて、参加していくことが大切だということを、次の世代である子どもたちに伝えていきたい。(佐藤恵里さん)
- メンバーにすごく支えられ、良い時間を過ごせた。まちづくりには、いろいろな形があるが、同じ想いの方たちがいるということは心強く、次のステップにもなるので、今後ともまちづくりに関わることが出来たらと思う。(古橋知美さん)

◆健康分科会(神谷通夫リーダー)

- ・健康が無ければ何も出来ない。健康をつくるためには、体を動かすこと。これには、お金も場所も要らない。健康に関する意識を、ほんの少しでも高めていただければ、健康を保つことが出来る。そのためには、地域・町内会・まち協の方の協力が非常に大切。
- ・基本計画にはいろいろ載せてあるが、ほんの少し健康に対する意識を高めていただければ、達成出来ること。
- ・指標も、グループでこうすれば目標の数値を達成出来るという数値を考えた。
- ・市民会議の声でも、意識を高めていただければ出来ることが全て。

【健康分科会メンバーより一言】

- 健康づくりのために自分に出来ること、地域で出来ること、行政に出来ることという分野から話し合い、この3つの力がともに大事だということを共有出来たのが成果。自分に出来ることとして提案。インフルエンザの予防接種をぜひ受けてほしい。(山本美喜子さん)
- 健康は、とても地道な活動。普段の生活の中では、どうしたらいいかと悩むことが多いが、メンバーの皆さんと話をさせていただいて、前向きに力強く、真剣に健康について考える場を持っていただいて、自分の仕事に対して、前向きに真剣にもっと取り組んでいかないといけないと思った。健康については、皆さん自分自身のことだが、周りを巻き込んでいけないといけない。(深沢弘子さん)
- 健康・福祉は、“ゆりかごから墓場まで”ということで、大変幅の広い、多く意見が出た。個人的には、墓場へより遅く行くために、今後も私なりに地域の高齢者の健康づくり運動に一層努力していきたい。(酒井辰美さん)
- 皆さんのいろんなご意見をお聞きして、自分にプラスになるものってなんだろうって考えながら過ごすことができて、大変有意義だった。印象に残ったのは、食育。食育は生活の中で大事だと感じた。(東文彦さん)

- 少しずつ健康を意識するようになった。(寺田千絵さん)
- 「大家族」を将来都市像に入れるなら辞めると言ったが、リーダーやメンバーの情熱、楽しい雰囲気を支えられ、「大家族」もちょっと良いかなと思うようになった。(神谷真人さん)
- 会社を定年してから、地域のことが全然分からなかったが、少しずつ分かってきた。(川角光子さん)
- 目標に「一人ひとりの元気と健康づくりを応援します」とあるが、自分の健康づくりということと同時に、一人が一人を誘い合い、その一人がまた一人誘って、「大家族たかはま」の健康づくりに少しでも努力したい。(川角鈿夫さん)

◆市長よりコメント

- ・ 1年間、長丁場だったが、皆さんの顔を見るのが楽しみで、なるべく参加をするようにしてきた。
- ・ 市が行う事業というのは、目標値を達成するための事業。だから、ここにいる職員は、自分の関係するところに、皆さんのどういう気持ちがあって、どういう事業をやっていくということが分かっているはず。それを、皆さんに見ていただくためにも、次に向けて、また皆さんと一緒に進捗管理をしていく場面が出来ると良い。
- ・ ここにいる職員以外にもたくさんの職員がいる。そこに、今参加している職員が、どう伝えていくか。それが事業になっていくときに、皆さんの前に表れてくる。
- ・ これからも皆さんの力を借りて、進捗を行いたい。次のステップに向かってご協力をしていただいて、事業を最後まで、3年間で1つの区切りになるが、見届けていただきたい。
- ・ 自治基本条例が、明日、議会で審査が行われる。ぜひお越しいただきたい。最終日の21日には、賛成・反対の立場で考えを述べながら議決される。
- ・ 総合計画は、行政が勝手に作って、勝手に進めていくものではない。まち自身は、高浜市民のもの。そこに参加をして、自分たちの関われるところは関わっていくという、力強いお言葉をたくさんいただいた。行政だけではやっていけないということは、私共も十分分かっている。
- ・ 13年前の日本青年会議所の冊子に「Yes, we can.」という言葉があった。これは、行政だけでなく、“われわれなら出来る”という意味の地域主権の考え方。高浜の地域と行政と議会と一体になってやっていく、高浜市づくりが始まったと思っている。これからもよろしくお願ひしたい。

2. お知らせ (8時50分～9時00分)

- ・ 今日発表された「基本計画(案)」を踏まえ、12月22日の審議会で最終チェック、調整を行い、1月13日の審議会で行政への答申を行う。その後、議会へはかり、議決されたら、平成23年度からスタートとなる。審議会は公開制のため、お時間があればぜひのぞいていただきたい。席の都合もあるので、傍聴希望の方は事前に連絡をお願いしたい。

- ・“皆さんのメッセージをお寄せください”という用紙を配らせていただいた。これを皆さんから集め、冊子としてまとめていきたい。12月22日までに、地域政策グループまで提出をお願いしたい。
- ・総合計画がまとまったら、“1年間ありがとう兼これからも頑張るぞ会”ということで、打ち上げ会をやりたい。2月ごろを目処に会を設けたいと思っている。

高浜市総合計画審議会を傍聴してみませんか？

- 【第9回】 12月22日（水）午後7時～ 市役所第5会議室（4階）
総合計画（最終案）の検討について
- 【第10回】 1月13日（木）午後7時～ 市役所第5会議室（4階）
答申



▲行財政運営分科会(神谷正巳サブリーダー)



▲自治基本条例分科会(板倉良平リーダー)



▲生涯学習分科会(山本時雄GL)



▲教育分科会(竹内一仁リーダー)



▲子育て・子育て分科会(鈴木康博リーダー)



▲産業分科会(神谷環光リーダー)



▲環境分科会(竹内亨弘リーダー)



▲都市基盤分科会(神谷和之リーダー)



▲地域福祉分科会(古橋知美リーダー)



▲健康分科会(神谷通夫リーダー)



▲市長よりコメント

